

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム アゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 本館 )	ユニット名( 新館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設け、地域交流を大切に、積極的に活動している。	左記同様	事業所独自の理念がある。これを基に現状に合わせた年間目標を職員間で話し合って決め、事務所内に掲示している。新人研修や月1回の業務会議、日々の申し送りでも話し合っている。理念に沿ったケアを心掛け、それを振り返ることで全職員の意志統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	警察署敷地内の花壇の手入れや、駅前の清掃作業に参加する事により、地元の人々との交流を深めている。	左記同様	グループホーム周辺に住宅がないため近隣とのつきあいの場面はないが地域との交流は事業所の理念にも掲げてあり、絵手紙の教室、歌や踊り、小・中学生との交流、地域運動会への参加など積極的に機会を持っている。また月1回ほどの定期的な保育園児との交流会の計画が進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実際にはまだそのような機会がないのが現状である。	左記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割合で開催しており、実際取り組んだ内容をビデオで紹介し、今後の活動等について報告している。それに対して意見交換を行い、そこで得た情報をサービスの向上に生かしている。	左記同様	2か月に1回、偶数月に開催している。会議には利用者も数名が積極的に参加している。事業所からの報告は日常の様子をビデオを使い説明し、単なる行事報告で終わらないよう工夫している。メンバーはより具体的に現状を理解でき必要な情報提供や提案に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議を行っている事から、会議の場以外でもアドバイスを頂き、市町村との連携を図っている。	左記同様	運営推進会議以外でも、様々な場面で事業所の実態や現状を知ってもらえるよう努めている。書類提出や運営推進会議議事録を郵送や直に手渡したり、電話などで担当者とのやり取りや、行き来を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束しないことを学習し、理解している。玄関は日中センサーを設置し、自由に入出入りできるようにしている。また居室においても昼夜を問わず鍵はかけず、自由に入出入りできるようにする等し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	左記同様	法人内で月2回の研修があり、身体拘束について学んでいる。全職員が良く理解しており、スピーチロックに関しても各ユニットリーダーを中心に日々のケアを振り返っている。また、カンファレンスの際も管理者は職員の気づきを促している。不適切な言葉かけには、職員同志で注意し合える環境ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解したうえで、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解したうえで、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず、理解、納得して頂けるよう説明し同意を得ている。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム アゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し、苦情処理に関する概要を揭示している。また、利用者の意見も傾聴し不平不満等を受け入れ、ケアや運営に反映している。	左記同様	年に2回、家族との面談の機会を設けている。面会や本人の受診時など家族が来訪の際、日頃の様子を話し家族からの要望を聞いている。家族とは信頼関係は築かれており気軽に意見・要望を受けている。もっと運動をして欲しいとの要望に甲州弁ラジオ体操を取り入れるなど出された要望は反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	左記同様	年1回、管理者、法人事務長とのヒヤリングがあり、職員は研修参加の希望や個人目標に関して希望や意見を話している。毎日の業務改善会議でも意見・要望・提案を出している。また業務上の疑問は職員自身が調べ、それを事業所内で発表し利用者のケア方法に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合いの場を持つたり、勉強会を定期的に実施する中で、職員が向上心を持って働く事ができるように務めている。	左記同様		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施。その後、内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。	左記同様		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、勉強会や交流会を通じて活動し、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。	左記同様		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の把握。相談を受けた時は可能な限り対応できるように務めている。	左記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“共に生きる”“できない事をサポートする”等の視点で毎日支援している。人生経験豊富な利用者様から多くの事を学んでいる。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム アゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は必ず家族と話をする時間を確保、良い雰囲気を作っている。	左記同様		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や祭りに参加する等して、これまでの生活が途切れてしまわないよう支援している。	左記同様	入居時、家族本人から情報を得ている。その後日常の生活での会話からも生活背景を把握している。自宅の近所の方の送迎で菩提寺の行事に参加できるよう取り次いだり、行きつけの書店へ付き添ったり、地域運動会の参加など個別の外出を支援し、これまでの関係性を継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支えあう事ができるように、さりげない声かけや働きかけをしてサポートしている。	左記同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人や家族から相談を受けた場合は、必要に応じて対応している。	左記同様		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族と話し合う機会を持つ事により、希望・意向の把握に努めている。	左記同様	入居時、センター方式を活用し利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族、来訪した知人、親戚など本人を良く知る人から聞いて多角的な視点から意向の把握に努めている。また表情や動作から汲み取って、職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族と面談を行い情報収集し、本人の把握に努めている。	左記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等を活用して情報を共有し、利用者の現状を把握するよう努めている。	左記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら、面会の際に家族の意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中で職員が意見を出しながら検討し、作成している。	左記同様	入居時、家族・本人の希望・要望を聞き、介護計画を作成し1か月ほど経過したところで職員と話し合い、職員、家族・本人の意見を反映したケアプランを作成している。その後3か月ごとに見直している。変化があれば都度見直し、必要があれば医療関係の意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録帳に記入し、情報の共有を行い、ケアや介護計画に反映している。	左記同様		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム アゼリア	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名( 本館 )	ユニット名( 新館 )	実践状況
					次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせ、職員が随時対応している。	左記同様	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署及び警察署、その他民間の協力により、地域で行われているボランティア活動に参加させて頂いている。	左記同様	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	提携の医療機関や、近隣の総合病院と連携を取っており、いつでも相談できるような体制が確保されている。また、かかりつけ医とも常に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	左記同様	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。内科・歯科・皮膚科の医師が往診している。これまでのかかりつけ医での診療を受ける場合は家族が受診対応しており、事業所からはバイタルデータ、生活状況を文書で渡している。文書での回答または口頭での返信があり情報は共有している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の看護師に相談する等して、支援している。	左記同様	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は面会に行き、家族と病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて話し合いをしている。	左記同様	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでそのような体制はとっていなかったが、現在重度化した場合や、終末期におけるケアを行っていく方向で検討中である。	左記同様	入居時に、事業所の対応し得る最大のケアと現状を説明している。看取りでは24時間365日の医療連携が不可欠であり、その医療連携体制を整えることが課題となっている。現在は重度化した場合、同一法人内施設へ移行するケースがほとんどである。終末期のあり方は今後、家族の意識の変化を見越して、看取りケアに対応する方向で多角的に検討している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が急変時や早期発見に対する研修を、定期的に受けている。マニュアルを作成し、併設施設の看護師指導のもと、万が一事故が起きた場合には、それにのっとり対応できるように学習している。	左記同様	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で話し合っている。また、年2回地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。それ以外にも3ヶ月に1度自主的に防災訓練を行っている。	左記同様	年2回、消防署の指導のもと同一敷地内の法人施設と合同の訓練を実施している。他に事業所独自の訓練を3か月に1回、火災・地震・夜間を想定して行っている。訓練はビデオ撮影し終了後、検証に役立っている。緊急連絡網訓練はグループラインを使用し即時性を高めている。家族の協力で災害伝言ダイヤル利用の訓練も行っている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも利用者は人生の先輩であるという事を念頭に置き、言葉使い等に気を配り、その場の状況を見て言葉かけや対応をしている。	左記同様	利用者一人ひとりの生活背景を把握して、その時々気持ちに添えるような言葉かけを心掛けており、言葉の強弱にも気をつけている。居室への出入りは必ずノックをし、失禁時の声かけにも羞恥心に配慮した対応を行っている。個人情報に関する書類は事務室に厳重管理しケア情報はパソコン管理している。

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム アゼリア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事ができる雰囲気作りを心がけている。	左記同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に添うよう支援している。	左記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室を利用できるようにしている。また、外出時に家族となじみの理美容院に行く事もある。	左記同様		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も一緒に利用者と食事を摂り楽しく過ごしている。	左記同様	法人内の栄養管理師の指導のもと利用者の希望を反映したメニューを立てている。材料は週2回の買い物他、自家菜園の野菜を使うこともある。利用者は持てる力に合わせて調理の下ごしらえ、お茶、テーブルの用意、配膳、下膳を行っている。ホーム内に調理する音、匂いが食欲を誘い楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等一人ひとり把握し記録している。	左記同様		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ等行い、口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせた方法で支援している。	左記同様		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	左記同様	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の生活リズムに沿った個別の排泄支援を行っている。トイレ誘導はさりげなく声かけし、失敗した場合でもプライドの傷つくことのないよう配慮している。また排泄用品が適切なのかも職員間で常に見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い、牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して、便秘予防を図っている。	左記同様		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入れるように配慮し、入浴を楽しめる事ができる支援をしている。	左記同様	毎日、入浴の準備はしてあり、時間は夜間を除いて午前でも午後でも希望に沿って入浴支援している。利用者のほとんどが週2~3回の入浴となっている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングや、声を掛ける職員を変えるなどして柔軟に対応している。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム アゼリア	外部評価		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			ユニット名( 本館 )	ユニット名( 新館 )		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活が活動的になるよう働きかけ、安眠できるように支援している。眠れない時は暖かい飲み物を提供したり、話し相手になる等して眠れる環境を作っている。	左記同様		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の作用や副作用、用法を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談できる体制も整えている。	左記同様		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族から、これまでの生活歴を聞き等し把握した上で、過去の経験を生かして得意な事に力を発揮する事ができるように支援している。	左記同様		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、買い物やドライブに出かける機会を設けている。また、利用者の家族の意見も取り入れながら、毎月遠足等を計画し、四季折々の季節を楽しみながら外出している。	左記同様	事業所内だけで過ごすことのないよう、できる限り散歩や外気浴の機会を作っている。畑を見に行ったりゴミ捨てのついでに散歩をするなど、日常の中で、ごく自然な形で支援をしている。自宅の様子を見たい、行きつけの書店に行きたいなどの希望には個別支援で対応している。月毎にレクリエーションとしての外出やドライブなど行事として計画されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、場合によっては家族との話し合いの上で、小銭を自己管理している利用者もいる。また、買い物の際には自分で支払いができるように財布を渡し支援している。	左記同様		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き、本人自ら電話をしている。また、携帯電話を所持している利用者もいる。	左記同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	左記同様	本館ユニット、新館ユニットは別棟にあり、建築時期も構造も異なるがどちらのユニットも気温、湿度が保たれており、採光や音にも配慮されている。対面キッチンからは食堂・居間が見渡せ利用者を見守ることができる。皆で一緒に過ごす以外に、2〜3人でのおしゃべりが楽しめるスペースが用意されている。壁などに貼られた作品から季節を感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、外にはベンチが置いてあり、一人ひとりの時間を過ごしている。	左記同様		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂き、本人及び家族と相談しながら、配置場所も考慮している。	左記同様	どちらのユニットもベッド、カーテン、クーラー、洗面台が備え付けられている。本館ユニットには各居室にトイレが備えてある。その人が気に入る居心地よく暮らせることを大切に、家族・本人が自由にレイアウトしている。家族の写真や本人が描いた絵手紙、馴染みの家具など心落ち着く空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等にすりを設置し、流し台や物干し等の高さも使いやすいように工夫している。	左記同様		